

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

宇宙について知り、てみよう (くま組, 3歳児)

2. 活動スケジュール・活動のために準備した素材や道具・環境設定

5~6月 図鑑や動画を見て宇宙について興味を深める 7月~8月 廃材を使って宇宙ロケットを作り作る
9~10月 自分でイメージを膨らませて自由に惑星を描いてみる 11月 五反田文化センタープラネタリウムに行く

宇宙の図鑑、段ボール、画用紙、絵の具、模造紙、はさみ、のり

3. 探求活動の内容 → 子どもたちが自分で考えて進めていくように手の届く範囲に置いておく。

5月頃子どもたちから「日本ってどこにあるの?」と問いがあり、そこから地球→惑星→宇宙と話が広がり図鑑や動画を見て宇宙についての知識をたかやましていきました。7月頃~9月頃にかけて段ボールや廃材を用いて世界に1つの宇宙ロケットを作り、保育園で「宇宙の旅にでる」をテーマに遊びを展開してました。宇宙飛行士や星にも興味関心が広がったのでプラネタリウムに行ってみよう子どもたちと話をし、11月に五反田文化センタープラネタリウムに行きました。その後、自分たちで想像を膨らませて惑星を制作して保育園に飾るといって宇宙について楽しんでました。

4. 活動中様子

ロケットを作ってみよう!

「宇宙飛行士さんって何に乗って宇宙に
いけるんだろう?」そこから
みんなが図鑑を見て
調べたこと...「ロケット」
に乗って行くことが判明!
「くま組にもロケットが
ほしい」ということで...

段ボール、廃材、
模造紙に画用
紙と色紙は材
料を使ってみんな
宇宙まで飛べる
大きいロケットを
制作しました。

「こうしてみよう」「こんな模様はどう?」とお友
達と話しながら楽しく作りすすめていく姿は
いきいきとしていましたよ。



ロケット完成!

毎日少しずつ、数ヶ月をかけた
ついに!世界にたった1つの
宇宙ロケットが完成!!
たくさん乗って、たくさん
宇宙に行くイメージを
ふくらませて遊びました。
窓からめく笑顔がステキ。



プラネタリウムに行きましたよ!

お部屋での活動をたかやましたので、実際に星や
惑星も見に行ってみよう!と五反田文化センターに
みんなで行ってきました。ちびっぴりおずかしいお話も
真剣に聞いて「うんうん」
とうつぶさず姿が、ますます
宇宙の不思議に魅了!
こんな子どもたちでした。



5. 振り返り

子どもたちのふとした疑問から、日常の活動を通して1つのことを深掘りしていく経験が子どもにとってとても
有意義だったと思う。また、自分たちで調べたり大人に聞いてみたりすることにより探究心が刺激さ
れ、自発的に「もっと知りたい」「〇〇はどうなんだろう」と行動できたのだと思う。保育者もいっしょに
楽しむことで互いに良い活動にたつた。この終わりが引きがき宇宙について探究していきたい。

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

異文化探求プログラム(くるみ組、3歳児)

2. 活動スケジュール・活動のために準備した素材や道具、環境設定

年3回実施 第1回 7/8(世界のたべもの) 第2回 7/11(世界のどうぶつ) 第3回 7/13(世界ののりもの)

パソコン、プロジェクター、マイク、机、椅子 → プログラムを2つのしめきりするように全員がよく見える高さや椅子の向きを置いておく。

3. 探求活動の内容

・英語のプログラムを受けていく中で言葉以外に世界にはどんな「もの」があるのか興味を持っていたので3回のテーマを3回に分けて英語の講師主導のもと行なった。映像を見ながら自分たちの知っているものから初めて知るものまで世界の色々なものを見て知識をたべていた。この活動から国旗にも興味を持ち、図鑑やカードを用いて国旗と国の名前を覚えたり、主都を聞いたリして探求活動を行なった。

4. 活動中様子

世界のたべもの



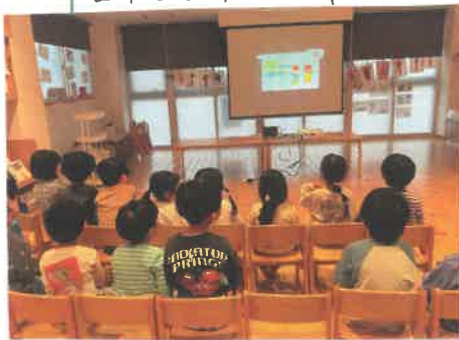
「おいしそ〜!」
「これ知ってる!」と
色々な食べものに
キラキラのおめめで
興味津々。
食べたことがある
ものは何個でて
きたかよ?!

世界のどうぶつ



「動物の名前も日本語と英語でちよとちがう〜!」とちがいに気付いて真剣な表情で見つめていました。可愛い動物さんたちに「にこにこ」は子どもたちでした。

世界ののりもの



日本では見ない乗りものから乗ったことがある乗りものまで色々な映像を見る度に、わくわくした様子の子どもたち! 世界にはたさんの乗りものがあると気付きました。

しゅしゅ! ダンス!!



たべもの、どうぶつ、のりもの... たさんの世界にある「もの」を知りたいよ! ダンス!! 手足をしっかりと動かして上手に踊っていましたよ。はりきって楽しいね!

5. 振り返り

日頃より英語に触れていたことで楽しみながらプログラムに参加できていた。またプログラム内容から子どもたちが発展させて保育室で「これはどこの国の動物でしょう?」とクイズを出してあそんだり、国旗を覚えたりとより充実したものにたつた。ここで終わるのではなく、子どもたちの声を拾いながら活動をたべて、興味関心を深めていきたいと思つた。